仮面ライダーゼロワン ― ウィルスと戦う女

桂ヒナギク

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

人工知能ＡＩ搭載の次世代型のスーパーロボットが存在する令和の世界。何者かの手によりインターネット管理されたスーパーロボットがウィルスに侵された。ウィルスを止める戦士は現れるか？

目次

Episode 1 ―――――――――――――――――― 1

Ｅｐｉｓｏｄｅ　１

青年の名は、飛竜（ひりゅう）　昭（あきら）。飛竜ＡＩ株式会社の社長である。
飛竜ＡＩ株式会社は人間をあらゆる局面でサポートする人工知能搭載人型ロボットを開発している大手企業である。
ＡＩは、感情を持ち、自ら思考し、主のために行動する次世代のスーパーロボットだ。
そのスーパーロボットの行動は、全てインターネットを介して監視、制御されているのである。
だが、そのロボットが、何者かの手でコンピュータウィルスにかかり、反乱を起こした。
ウィルスにかかったロボットは、普段は人間の格好をしているが、人を襲う時に怪物に姿を変える。
変貌したロボットは、人間をはるかに超える力を発揮し、通常の武器では太刀打ちができないのである。
飛竜社長は、ゼロワンドライバーの開発に着手し、適合者を人間の中から探して回っていた。

昼下がりの飲食店。
叶（かのう）　麗子（れいこ）は空腹を満たすため、食事をしに来ていた。
ウェイトレスのＡＩが、麗子の注文を取っていると、いきなり動きが止まってしまった。
「どうされました？」
麗子が訊いても、ウェイトレスのＡＩは無言のままだ。
すると、ＡＩの目の色が変わり、表皮が剥がれ飛ぶようにして怪物に変貌した。
「……!?」
麗子は咄嗟に席を立ち、その場を離れた。
「うわあああああおおおおおああああ！」
怪物は咆哮し、誰もいなくなった席を破壊した。
騒ぎを知った客や店員たちが、一目散に逃げ出す。

変貌したＡＩは外に出ると暴れだした。
（このままでは町の人たちが！）
麗子は暴走したＡＩを止めるため、果敢に立ち向かうが、一撃で吹っ飛ばされた。
そこへ、飛竜が現れた。
「大丈夫？」
その手にはジュラルミンケースが握られている。
「誰？」
「君のような戦士を捜していたんだよね」
「え？」
「ゼロワンドライバーとプログライズキーだ」
ジュラルミンケースを開ける飛竜。
「これを使ってやつを！」
飛竜はバックルとプログライズキーを麗子に渡した。
「バックルを腰に！」
「なんか分かんないけど、やらなくてはいけないのね」
麗子はゼロワンドライバーを装着した。
すると、膨大なデータが脳内に流れ込んできた。
「Ｊｕｍｐ！」
プログライズキーのボタンを押してからゼロワンドライバーにあてがう。
「オーソライズ」
麗子はプログライズキーをゼロワンドライバーのサイドに装填する。
「変身！」
バックルが展開し、黄緑色のバッタの戦士、仮面ライダーゼロワン・ライジングホッパーに変身する麗子。
「あ？」
ゼロワンは自分の体を改める。
見事にゼロワンに変身した麗子は、襲いかかってきたＡＩと応戦する。

先ほどと同じ力の一撃を浴びるが、ゼロワンはびくともしない。
（防御力パねえ！）
ゼロワンは反撃し、圧倒的な力でＡＩを追い詰める。
反撃を受けたＡＩはグロッキー状態に陥（おちい）る。
「とどめ！」
ゼロワンは装填済みのプログライズキーを奥へ押し込む。
強力な必殺のライダーキック、ライジングインパクトが発動。
飛び上がったゼロワンがＡＩにとどめの一撃を浴びせた。
ＡＩは爆裂霧散。跡形もなく消滅した。
ゼロワンの変身が解け、麗子の姿に戻った。